

發行兼編輯人 川崎文治

本社下町番地(電話六三〇番) 印刷所 常盤毎日印刷

定部金貳圓 廣告費五圓 印刷費一圓 郵費一圓 零售每份五分

日曜大祭 祝日ノ翌 發行所 常盤毎日印刷社 電話六三〇番

常盤新報

刊夕日十三月六

消防獎勵宣傳大會

突如 公開する

廿九日より四日間 特別興業

米國ユニバーサルシネマ超特作映畫 帝都大殿堂帝劇に於て公開するや 人氣沸騰の大盛況を示す

消防音なき警報

天を焦す猛火の中へ入る…… 消防手は如何に職務重大なるやを知られ

特別番外として帝キネ獨特の喜劇 『ダイヤの光』連続奇談『黒髪地獄』を上映

連日満員に付入場料値上せず 帝キネ直營 有聲座

女學生用モリマス

防水マント

鶴屋商店 電話百四十番

豊間の大敷網にて 鯛が豊漁に付き 阿部源では……

鯛でんぶ 「味付おぼろ」

近日中 賣出しします

阿部源 電話特長五二七番

磐城建設物會社

建築ノ絶好季!!! 機會ハ來ル!!!

材料ハ安ク、能率ノ上ル 頼ンデ德、請ケテ樂ナ建物 ノタメニチル

▲一戸十五坪以内ノ住宅本年内十月ニ限リ建築費三分ノ二迄三ヶ年月賦金融

▲家賃ト大差無キ掛金ニテ三年間ニ自分ノ家トナル毎月其家ノ東端シカラ三十六分ノ一宛アナタノ物ニナツテ行クノデス

平町細尾町(縣社通り) 美味イウキ食堂 味の部電話四六〇番

僑醫 關内藥局

電話四〇番

常盤論 人口調節と移民の價值

布川靜淵

本邦の農業人口は尙ほ總人口の半數を占める、食糧補助としては環海の魚類豊富なるあり。之を以て現狀が維持されつゝある。今後益々人口増加と共に農業戸數の減退する状態にあれば都會は膨脹し同時に工業労働問題繁くして人口調節の問題に移るので、今日は其の端緒にして未だ中心に達して居ない。随つて二三萬乃至五六萬の移民を爲すと他方には同一速度を以て

涼しい夏服!!!

夏服は斯界に定評ある……正札堂の既製品を召し下さい。

アルパカ上衣▲ 安うり
白セルボン▲ 早うり
黒セル上衣▲ 早うり
パンピース上下
ヘイヤクロス上下
霜降學生服
其他外皮類

平町四丁目停車場通 須藤房教

正札堂洋服店 電話呼出二三四番

看護婦派出所の求めに應ず

平町南町 平看護婦會 電話三〇七番

山古印醬油

山古

美味 經濟

大和田醫院

耳鼻咽喉科専門

平南町(電話一七〇番)

鹽屋山崎合名社會 電話 一〇七番

補給作用が行はれ又朝鮮労働者の如き多數移入されて居る此補給作用の及ばざる程度までに移民數を送り出す如きことは今日の場合一場の夢物語に過ぎない。何となれば一年の自然増加が七十五萬人を算し、外に簡易安直に移民を送致すべき地なく、又財政事情之を許さぬからである。故に日本の人問題解決は、一に國民の自覺と内部的制限による外、良策なきを覺る時機を待つことに歸するではないか。今日の急務は教育の方針を生活問題と結び付け、即ち教育を實際化して、各自動くことを主とし、輸出

貿易を奨励して新販路の擴張を圖り、商工業の隆盛によりて人口を維持する傍ら國民は早婚を戒め獨立生計を立て得るまで結婚せざる底の氣風を造ることを先決問題とせねばならぬ。因に云ふ、如上の論旨は既に臨機唱道したることがあるが昨今人口問題解決として又々海外移住を云々する論客多きを以て、茲に一言したのである。他日各國の歴史と統計事實を例證して發表する機會を得たいと思ふ、本文は其序説に過ぎない (をばり)

自乗用者 轉音 福

購入の便法あり

エグゼレスト キヤビネット

日掛けや月掛等の方法に依り望みに依つては現品を前渡し致します

平町 搔搦小路 鹽野平支店

本店 東京市神田區末廣町一〇

美味しい

森永フキンガービスケット

一函六十枚入 四十錢

目丁四 ヤトモツマ 番二一四電

平町南町 吉田眼科醫院

けふを限りの郡役所で 「重荷を卸した」と語る

水野郡長の思ひ出

吏員を集めて告別の挨拶

四ヶ町村、人口廿二萬、縣内各郡に比べてどの點から見ても優に二郡分はあると自慢の鼻を高くしてゐた五十年の歴史を持つ石城の郡役所も、いよいよけふ限りで廢止となる明治廿五年師範を出てから、つと教員から視學、縣屬、郡長と進み郡長としては、例な内務部長と同格の三等官にまでの上り詰めた石城郡長の水野さん、功成り名遂げて卅五年の長い役人生活におさらばを告げ退官するけふの午後三時吏員一同を集め

下水改修の急務

調節の起工と契約改正 平町當局で考慮中

平町は近時急激なる膨脹をなし乍ら衛生方面の施設の不備は全く縣下に於ても有名で外來者の悉くが平町のために之を借み當局でも少からず之が改善に腐心して居るが、

下水の

改革が目下の急務で現在は五丁目より南町側と北裏に岐れ一丁目鍛冶町を経て新川に排水する様になつてゐるが右は衛生上極めて宜しくないのので三丁目通りより新川に排水すが衛生的で新に下水を開鑿するが最も適當であると呼ばれ

當局で

も調査中であるが工費は少くも十二三萬圓は要する見込で財政多端の折柄難題とされてゐるが町當局では有志の寄附に幾分の町費を支出し之を實現せしめ度い嚮である之と同時に同下水は愛谷江筋より引水してゐるものであ

中だけは海に近いこの土地で海水浴でもして暮す考へさ、然しこのまゝ遊んで隠居する考へはないよ郡廢で部下職員のうち退職する者も皆それぞれ

嫁入り

が決定してゐる失業するのは秋だけだ何か適當な仕事があつたら心配して呉れ給へ」と至極あつさりしたものである

夏期は

引水出來ぬ契約があるため濁水と悪臭紛々たるものあり流水せざる爲め一部町民は同下水に汚物を投棄し塵捨場の如き觀あるので夏期と雖も幾分宛引水し得る様契約改正すべく目下考慮中である

小川江筋の 管理者問題

郡廢後には 内務部長に

石城郡小川江筋は郡長が管



朝顔の咲かせ方

灌水の仕方は必ず汲置きの水ぬるい水を夕刻一回づつ充分にやり、若し不足の場合

鎌田遊廓に 時間制を設く

一時間一圓也

檜村平警察署長は本日午前十時より鎌田遊廓の娼妓一同を治療院に集め豫ねて樓主側と協定した娼妓の優遇案をよく説き聞かせ更らに一、遊興を時間制として飲食と區別し一時間金一圓の定めと爲す事

黒煙に追はれて 逃げ惑ふ坑夫の群れ

小田炭礦の坑内より 突如火災起る

昨日午後六時四十分石城郡好間村小田炭礦左五坑道十五界の坑口より約九百間の個所より火災起り黒煙濛々として坑内に充満し折柄作業中の勞働者卅四名逃げ場を失つて右往左往に修羅の巷を現出したが早速二百名の消防隊を組織して右の坑

石城郡の代歴

郡役所の廢止に當り試みに明治十二年二月六日開廳以來の歴代の郡長を回顧して見ると初代の郡長は明治十二年二月六日四等警部から菊多警前警城郡長に任せられ十四年一月迄在任した清宮義衛氏で同人の死後を承け判事味岡禮賀氏が十四年四月十一日から翌十五年の五月一日迄居たこの人が

依願免官

となつて同年五月一日三宅新なる人が三代目の郡長となつたがこの人は同年の十二月卅日

郡役所の廢止に當り試みに明治十二年二月六日開廳以來の歴代の郡長を回顧して見ると初代の郡長は明治十二年二月六日四等警部から菊多警前警城郡長に任せられ十四年一月迄在任した清宮義衛氏で同人の死後を承け判事味岡禮賀氏が十四年四月十一日から翌十五年の五月一日迄居たこの人が

望された今の白井遠平翁で當時不惑を出たばかりで經綸に一段の燃犀を加へ來つた壯年時代の翁は十九年五月十四日その桑梓の地を有する石城の郡長として任せられ同年七月十二日地方官々制により

奏任官に

進められた即ち翁こそ石城郡に於ける高等官郡長の始祖でそれ以前は郡長と云つても判任官の人を以て之に充て、居た當時の石城の郡長は短き半歳長きも二年足らずの在任なりしに反して白井郡長の在任は前後四ヶ年に及び二十三年四月一日西白河郡長に任せられた

その次へ

は西白河から入れ替はりに三淵隆衛氏が据はつて之亦在任四年町野重正郡長と入り替はりに山形縣西田川郡長として去つた町野郡長在任中の二十九年四月一日郡の廢置により從來の菊多警前警城郡長から石城郡長として任せられ居ること

前後二年

にして田村郡に轉じた、後任は伊達沼澤七郎郡長であつたがこの人は赴任せずして非職となつた、そこへ小池友謙氏河沼郡長から轉入したが居ること僅に四ヶ月にして信夫へ去り三十年の四月に大沼から來た桐原彦吉郡長

暮に警視

になつた次が安積郡長から來た成田直忠氏で四十年の秋田村へ轉じその後へ河沼から中村直敬郡長が就任しこの人は大正二年の八月耶麻郡長から來た平つ子の青沼餘太郎氏と代つた次が大正七年の夏現農商課長の佐瀬剛氏は

安積郡長

から轉じ十二年の四月同氏の縣廳入りと共に石城郡長の椅子に据はつたのが信夫から來た郡廢棹尾の郡長高等官三等從五位勳五等の水野虎三郎氏で開廳以來恰度十七人目になつてゐる